

# わがまち瀬谷

第58号 (平成29年7月1日発行)

編集・発行 セヤ・ガイドの会



本郷からの日枝社ケヤキ

## 瀬谷の魅どころ

### 瀬谷の石造物Ⅲ・狛犬について

(狛犬の あ・うんのあくび 神の留守)

神社を訪れると石造の「狛犬」を目にする。「神・仏(聖域)を邪悪なものから守護する」と云われ、一対で構成奉納されている。

**その起源は** 元は「ライオン(獅子)」で起源はインドの仏教寺院に「ライオン(獅子)」像を2個設置したことに始まっていると云われる。それが中国に伝わり、「唐獅子」となり、朝鮮半島を経由して飛鳥時代に仏教とともに日本に伝来した。

当初は、中国と同様の一対の「唐獅子」であったが、平安時代頃より、向かって右に口を開けた角なしの(阿形)「獅子像」、左に口を閉じた角ありの(吽形)「狛犬像」に変わってきた。当初は、神社の本殿や仏殿内部に設置されていたが、江戸時代から庶民の信仰で奉納されるようになり、設置場所も境内と変わってきた。



東大寺・狛犬

**日本最古は** 日本最古の石造り狛犬は、東大寺南大門にある狛犬で、建久七年(1196)の作ですが、これは中国(宋)から呼んだ石工職人に宋の石を使って作らせたもので、形も阿吽にはなっていない。



また、**左の写真は**、山梨県旧三珠町の熊野神社の石造り狛犬で応永12年(1405)2月の銘が腹部に刻まれている。最初から屋外に置かれたと思われる、最古の部に属するのではと云われている。

**県内最古は** 県内最古の狛犬は、1番目に真鶴の貴船神社の万治元年(1658)、2番目が、鎌倉八幡宮大銀杏脇の寛文8年(1668)、3番目が湯河原素鷲神社の寛文10年(1670)と云われる。大きさでは、鎌倉八幡宮段葛の参道入口に立つ、コンクリート製が一番と云われている。



鎌倉八幡宮・狛犬



品川荏原神社・狛犬

**見事なる造形美** 品川の荏原神社の狛犬は数匹の子犬と戯れ、ボタンの花を浮き彫りにした大胆な構図の像で(明治39年・1906・石工栗原氏)その技の冴え、優美な一対の見事さには驚かされる。



若宮八幡宮

**瀬谷では** 瀬谷の狛犬で古いのは相沢諏訪社の明治27年(1894)、つづいて上瀬谷若宮八幡宮の昭和10年(1935)、阿久和熊野神社の昭和24年(1949)で、後に三ツ境白姫神社、橋戸左馬社、宮沢神明社、本郷日枝社、二ツ橋神明社と続きで、二ツ橋神明社は平成15年(2003)に奉納されている。これらはどの年代まで石工職人の手作りなのでしょう、最近では中国からの輸入が多いと聞く。



諏訪社

明治、大正時代の石工職人の見事な技は、残念ながらもう見られなくなってきたのかもしれない。

井嶋 記